

研

究

だ

よ

り

第5号

令和元年 10月4日発行

横手支援学校 研究部

授業研究会の様子

2学期に入り、多くの学級、学習グループが授業研究に取り組んでいます。今回はミニ授業研究会の中から工夫がキラリと光った「いいね!」について紹介したいと思います。

また、全校授業研究会の様子については、支援部報校外版第3号に掲載しています。そちらも合わせてご覧ください。

高等部1年家庭科2グループ 「日常の食事と調理～基本的な食生活～」

食事のマナーについて、相手も自分も「気持ちよく」という視点で考え、実践できることは何かを考える授業でした。

前時に学習した「食事の役割」について、授業の導入部でプリントなどを用いて振り返りを行いました。食事の役割を振り返る中で、栄養や健康面の役割以外に対人関係や食文化に関する役割もあるということに自分たちで気付き、友達と共有することができました。その気付きから、「楽しく」「気持ちよく」食事を行うためにはどんなことに気を付けたらいいのかという本時の学習課題（めあて）を自分たちで設定することができました。

その他の場面でも生徒の思考判断を促し、授業の流れを生徒とともに組み立てていこうという工夫が随所に見られる授業でした。

自分たちでめあてを設定し、学習する意義が実感できる工夫



小学部1年 生活単元学習 「あきをかんじよう」



身近な秋の植物や生き物について〇×クイズや制作活動を通して、親しみ、理解を深めようとする授業でした。

導入から、児童たちが教師の話に真剣に耳を傾けていました。「今日は何をするのかな」という期待感をもって学習に参加している様子が見られました。児童の好きなことで興味を引くという段階から、「学習自体に興味・関心をもつ」という主体的な学びにつながる段階にまで育てている子どもたちだと感じました。入学から半年、勉強することが楽しいという経験をたくさん積み重ねてきた成果が表れた授業でした。

学習自体に興味・関心をもつことができる経験の積み重ね



高等部3年家庭科1グループ 「よりよい暮らしのために①～余暇の過ごし方～」

イオンモール大曲への校外学習に向けて、交通手段や交通費などを調べて、行程を考える学習でした。

分かりやすい板書や学習内容やゴールが明確で簡潔に示された学習課題、思考がしやすいノートの使い方の指導など、整理された環境やルールを設定することで、学習の展開も整理され、生徒が自分たちで試行錯誤し、気づき、意見をもち、友達と共有し、まとめることができました。思考の流れが整理されたことで、交通手段を選択する際に「慣れた乗り物だから」「待ち時間が少ない方がいい」「いや、待ち時間があるとゆとりがもって移動できる」などの実生活に即した理由を自分なりに考えることができました。

思考の整理につながる学習環境や学習の展開の工夫



月 目標に関連して



10月の学習目標

・ 友達と協力したり、最後まで自分の役割を果たしたりしながら学習に取り組もう。

先月に引き続き、富山大学人間発達科学部附属特別支援学校の実践です。以下の観点やポイントを押さえることで「児童生徒が互いに協力し支え合いながら学ぶことで、役割をもつことに価値観を抱かせること」ができるということです。

児童生徒同士が協力して取り組むことが、児童生徒それぞれに与えられた役割を果たすことに繋がり、今月の学習目標を達成できるのではないかと思います。学習目標に取り組む上での参考になればと思います。(今月の記事担当 小学部 佐藤潤也)

授業における「参加」を具体化する観点

- ① ねらいに沿った学習機会を多く設定する
- ② 学習の準備から段取り、片付けまで子ども自身が協力して行う
- ③ 集団の一員として、役割を持って活動する

「協働学習」を生かす授業展開のポイント

- ① 全員にしっかりと役割をもたせること
- ② 互いにしっかりと向き合って支え合わせること
- ③ 与えられた役割を果たせるように互いに協力し合わせること
- ④ 経過と成果(結果)を繰り返し振り返らせ確認させること

